



# 青南だより

令和4年6月号

港区立青南幼稚園

園長 新山 裕之

## <これからの社会に求められる人材とは>

世界の中の日本の立ち位置は、20年前と大きく変わっています。観光立国を掲げていましたが、コロナ禍で先行きが見えません。日本には豊かな自然や優れた伝統文化はあるものの、食料や原材料の自給率が低いことは課題です。そのような状況下で、人を育てる立場の私たちが目指すべきは、自らの強みを知って生かし、多様な意見を取り入れながら、丁寧に仕事を進め、社会を変革していくことができる人材の育成だと思っているのですが、いかがでしょうか？

## <自分で考えて行動する構えを育てるために>

私たちは、日々子どもたちが人や物、出来事と関わる中で、そこでの楽しさの共有や充実に向けた指導をします。同時に、そこでの小さなやり取りが「人としての構え」となり、将来の姿につながることを強く意識します。大人に言われて行動するのではなく、善悪などを自分で判断して行動できるように、時には敢えて言葉を掛けずにそっと見守ることもします。思いの伝え合いができない場面も多いのが幼児ですから、気持ちを受け止めつつ、通訳や仲介役をすることも数多くあります。

## <実体験を通して育む>

幼児教育は、子ども自身が伸びようとする姿を大事に受け止めて伸ばす教育です。知識や技能も必要ですが、それは遊びや生活の中で必要感をもって取り組む中でこそ身に付くものであり、その結果として身に付いたものは簡単には忘れないものとなります。さて、コロナ禍で3年目の今年は、PTA主体の新しい方法で青南まつりを予定しています。地域の未就園児親子を招待することは叶いませんが、困難な状況を前向きに捉え自分も周りも楽しみながら解決していくことをみんなで共有し、その構えの大切さを実感できたらすてきです。

### ・・・水無月（みなづき）・・・

ぼろしゆ

芒種（6日）… 紫陽花が色付き始めます …

げし

夏至（21日）… 水遊びが気持ちいい季節です …

バラ門脇のアジサイは、昨夏の猛暑で一旦は枯れてしまったと思ったものが蘇りました。しかし、花芽はあまり付いていないようです。植物の生命力に感心すると同時に、やはり自然は人間の思い通りにはならないことも痛感します。裏庭のピワは私が赴任して初めて、実を付けてくれています。築山のユスラウメは、残念ながらあまり実りませんでした。築山横のアンズは実を付けており、初夏の収穫が楽しみです。

### 青南の 二十四節気



採れたてのソラマメを味わうことができました



次の花や野菜のために、みんなで土作り！



5月半ばから年少組も弁当を食べ始めました



年少組は親子で枝豆を育てることにしました



裏庭の柿(左)とやっと実を付けたピワ(右)